

アドビの生成AI： クリエイティブな画像編集の 生産性を再定義

この調査レポートについて

このレポートは、Pfeiffer Consultingがアドビの委託を受け実施したベンチマーク調査の結果をまとめたもので、Photoshopの「生成塗りつぶし」など、最近導入された生成AI機能がクリエイティブワークフローの生産性に与える影響に焦点を当てています。

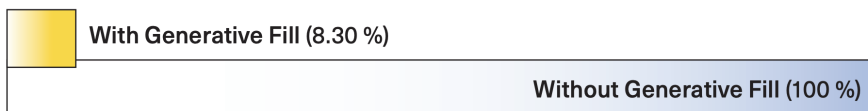
ベンチマークは、Pfeiffer Consultingが10年以上かけて精緻化してきた「Productivity Benchmarking（生産性ベンチマーク手法）」を用いて実施され、経験豊富なオペレーターが特定の実作業を実行するのにかかる時間を測定しています。詳細については、この資料の最終ページにある「調査方法」セクションをご参照ください。

アドビの生成AIテクノロジーについて

アドビの生成AI機能は、これまでに2つの形態で導入されています。1つ目は、Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorなどの**主要なCreative Cloudアプリへの追加機能**として。もう1つは**Adobe Firefly**という、テキストプロンプトやその他の生成ツールによって画像生成を行う専用のwebサービスとしてです。

なかでも、Photoshopの「生成塗りつぶし」や「生成拡張」は、レタッチにおける創造的な可能性に大きな影響を与えます。この調査では、これらの機能が一般的なレタッチ作業の生産性を著しく向上させることが明らかになりました。実世界のレタッチ作業のベンチマークにより、「**生成塗りつぶし**」および「**生成拡張**」が従来のツールよりも平均10倍以上速いだけでなく、これまで不可能だった創造的オプションも提供することが分かったのです。

主なベンチマーク結果：10のワークフローベンチマークの平均



実際のワークフローベンチマーク10種類の平均に基づくチャート。

参考値：従来のレタッチツールで作業した場合の平均時間。**短いほど良い。**

エグゼクティブサマリー

- アドビは、**Adobe Firefly web版を通じて**、あるいはAdobe PhotoshopやAdobe Illustratorなどの**Creative Cloudアプリケーション**や**Adobe Expressに搭載された生成AI機能**として、いくつかの生成AIテクノロジーを導入しました。
- 生成AIは、**クリエイティブワークフローを大幅に拡張**し、クリエイティブプロジェクトのあらゆる段階でクリエイティブプロフェッショナルの生産性を向上させます。
- Photoshopに新しく導入された「生成塗りつぶし」は、**一般的なレタッチ、合成、編集作業を大幅にスピードアップ**し、アイデア出しや画像のクリエイティブな加工に新たな視点を提供します。
- この調査のために実施されたベンチマークでは、「**生成塗りつぶし**」と「**生成拡張**」の**スピードは、従来のレタッチ方法よりも平均で10倍以上高速**でした。（下図参照）
- IllustratorやAdobe Fireflyで利用できる「**生成再配色**」は、**ベクターアートのカラー調整を大幅にスピードアップ**します。

クリエイティブタッチワークフローにおける 生産性の再定義

AIの時代における人間の創造性

クリエイティブ業界では、AIはデリケートな話題となっています。何百万枚ものオンライン画像でトレーニングされた生成AIシステムが、熟練したアーティストが何日もかけて作成するようなレベルの画像を数秒で生成できるようになって以来、人間の創造性に関するAIの役割に関する論争が急増しています。

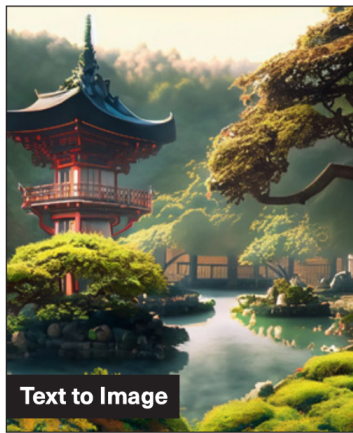
このような状況の中で、アドビのAIに対する特異なアプローチは際立っています。クリエイティブワークフローにおけるAIツールの導入に何年も前から取り組んでいるアドビの焦点は常に、**クリエイティブプロフェッショナルの仕事の高速化と改善であり、AIが彼らに取って代わることはありません。**そして、同社の最新の成果であるAdobe Fireflyや、Adobe PhotoshopやIllustratorなどのアプリケーションに導入された生成AI機能は、**AIがクリエイティブプロフェッショナルにとって素晴らしい、ときには目を見張るような生産性の向上をもたらし、創造性を代行するのではなく、より良い仕事をより速く行えるように支援できることを示しています。**この調査の目的は、こうした生産性の向上を分析・定量化し、クリエイティブワークフローにおける生成AIの役割を明らかにすることです。

主なポイント

- アドビの生成AIは、人間の創造性を置き換えるのではなく、**プロフェッショナルの生産性を高め、創造性を拡張するツール**を提供することを目的としています。
- 生成AI機能は、専用のwebサービス**Adobe Firefly**を通じて利用できるほか、PhotoshopやIllustratorなどの**Creative Cloudアプリの主要な新機能**としても利用できます。
- 生成AIは、**クリエイティブワークフローのあらゆる段階で生産性を向上**させます。
(下表参照)

AI支援によるクリエイティブワークフローの生産性向上

	アイデア出し	アセット作成	創造性の展開	仕上げ
AI機能	Adobe Fireflyでアイデア出しや様々な選択しの検討を高速化	Adobe Fireflyに必要なすべてのビジュアルアセットを作成し、PhotoshopやIllustratorを使ってさらに加工したり、他のアセットと組み合わせたりする	Photoshopの生成AI機能を使って要求された変更をすばやく反映し、生成再配色でベクターアートのバリエーションをすばやく作成	Photoshopの生成AI機能と既存のレタッチ機能やツールを併用して作品をすばやく仕上げる
AIの利点	生成AIは、人間の創造的プロセスを拡張・高速化することが可能	生成AIは、他では簡単に得られないようなイメージを生み出し、既存のアセットの加工も大幅に加速する	PhotoshopやIllustratorの生成AIを使えば、ステークホルダーが求める変更に対応する時間を大幅に短縮できる	Photoshopの生成AI機能により、さまざまな制作タスクの生産性が著しく向上する



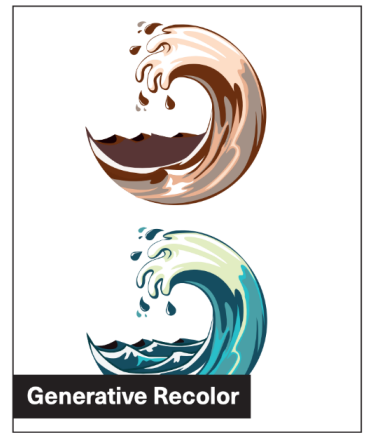
Text to Image



Generative Fill



Text Effects



Generative Recolor

生成AIがクリエイティブワークフローにもたらすもの

アドビは、AIベースの最新機能を2つの異なる方法で提供しています。1つ目は、**Adobe Firefly**というwebベースのサービスで、希望する出力を自然言語で説明（テキストプロンプトとも呼ばれる）することで画像の作成や編集が行なえます。他のAI画像生成システムとは異なり、Fireflyにはユーザーをガイドし、結果をコントロールしやすくするための**幅広いプリセット**が用意されています。また、非常に洗練されたスタイル付きテキストを生成したり、ベクターグラフィックスを再配色したりすることも可能です。

2つ目は、主要なCreative Cloudアプリケーションに搭載された生成AI機能への直接のアクセスです。現在、PhotoshopとIllustratorがサポートされていますが、近いうちにさらに多くのアプリが続くことは間違いありません。特にPhotoshopでは、生成AIの使用はクリエイティブなレタッチの転換点となっています。「**生成塗りつぶし**」と「**生成拡張**」は、おそらくここ数年で最も重要な機能追加であり、何時間分ものレタッチ作業が数秒から数分で完了するだけでなく、これまで単純に不可能だった創造的な作業も可能になります。このレポートの次のセクションでは、これらの機能について詳しく説明し、生産性への具体的な影響についても分析します。

Adobe Fireflyの特長

Adobe Fireflyには、「テキストから画像生成」（テキストプロンプトとスタイルプリセットからの画像生成）、「生成塗りつぶし」（アップロードされた画像の生成レタッチ）、「テキスト効果」（テキストプロンプトからの高度なテキスト効果の作成）、「生成再配色」（アップロードされたベクターアートの再配色）という、4つの異なる生成AIツールが用意されています。

「3Dから画像生成」（3Dオブジェクトから画像を生成する機能）など、その他の生成AIツールは現在開発中です。

レタッチに特化したアドビの生成AIの主な利点

	アドビの生成AIを使わない場合	アドビの生成AIを使う場合
簡単なレタッチ作業 （画像のクリーンアップ、不要なエレメントの除去など）	<ul style="list-style-type: none"> 「コピースタンプツール」、「スポット修復ブラシツール」、「コンテンツに応じた塗りつぶし」などの標準的なレタッチツールを使って作業する 時間がかかったり、厄介な作業になる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 「生成塗りつぶし」なら、画像から不要なエレメントを削除したり、コンテンツに適した別の背景に入れ替えたりが数秒で可能 「生成塗りつぶし」を実行するたびに複数の候補が提示され、確定するとレイヤーマスク付きのPhotoshopレイヤーとしてファイルに保存される
複雑なレタッチ作業 （背景の変更、エレメントの追加・修正、エフェクトの追加など）	<ul style="list-style-type: none"> Photoshopが取り揃える高度な選択、合成、レタッチ機能を使って作業する Photoshopの高度な機能を使いこなせるほどの経験が必要で、非常に時間がかかる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 「生成塗りつぶし」に搭載された生成AIの力で、画像にエレメントを追加したり、背景を変更したりが数秒で可能 「生成塗りつぶし」を実行するたびに複数の候補が提示され、確定するとレイヤーマスク付きのPhotoshopレイヤーとしてファイルに保存される
完全なコンポジションの作成 （複数の画像を組み合わせる、複雑なコンポジションを作成するなど）	<ul style="list-style-type: none"> 複数のアセットを手作業で組み合わせ配置し、目的のコンポジションを作成する Photoshopの高度な機能を使いこなせるほどの経験が必要で、非常に時間がかかる場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> Adobe FireflyまたはPhotoshopの「生成塗りつぶし」を使って、テキストプロンプトと豊富なスタイルプリセットから画像全体を作成できる Adobe Fireflyを使用すると、テキストプロンプトとスタイルプリセットに基づいて、洗練されたスタイル付きテキストを作成可能

日常的なレタッチ作業に革命をもたらす

「生成塗りつぶし」

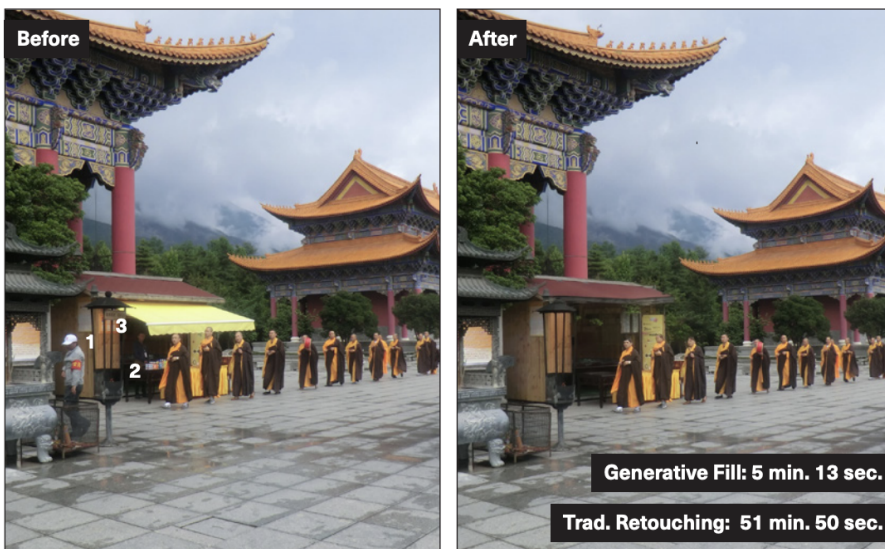
「生成塗りつぶし」の魔法

「魔法」の例えは大げさではなく、この機能の能力には、熟練したPhotoshopユーザーでさえ言葉を失うほどのものがあります。使い方は、選択範囲を作成した直後にポップアップ表示される「生成塗りつぶし」パレット上で、アイテムの削除・追加など希望する結果を記述したプロンプトを入力するだけです。これまで画像から不要なアイテムを削除するのに非常に時間がかかることがありましたが、「生成塗りつぶし」では、オリジナルの画像の要素や配色を活かしながら生成AIでその領域の画像を再構築し、周囲に溶け込むように結果を生成します。さらに、「生成塗りつぶし」では、新しいレイヤーとレイヤーマスクを作成することで、元の画像に手を加えないだけでなく、ユーザーが選択できるいくつかのバリエーションも提供します。

以下に例を挙げて説明します。左の画像を右のようにクリーンアップするには、画面左の観光客の姿だけでなく、黄色い日よけや、中国僧の行列の後ろにある売店の前に並んだソーダ缶も取り除く必要がありました。厄介なことに画面左の人物の手前には金網があり、これは保存する必要があります。私たちのベンチマークでは、3つの異なる領域（観光客の姿、ソーダ缶、黄色い日よけ）を「生成塗りつぶし」でクリーンアップするのにかかった時間は5分強で、手動でこれらのアイテムを削除すると50分以上かかりました。

主なポイント

- 手動で画像をクリーンアップするのは非常に時間がかかります。「生成塗りつぶし」は、画像の選択範囲に生成AIの力でアイテムを削除または追加し、この作業に革命をもたらします。
- 「生成塗りつぶし」による生産性の向上は非常に大きく、レタッチ作業を瞬時に完了させることができます。
- 「生成塗りつぶし」は、選択範囲内のアイテムを削除するだけでなく、その範囲内のコンテンツを画像全体の構成やスタイルに溶け込むように完全に再構築します。



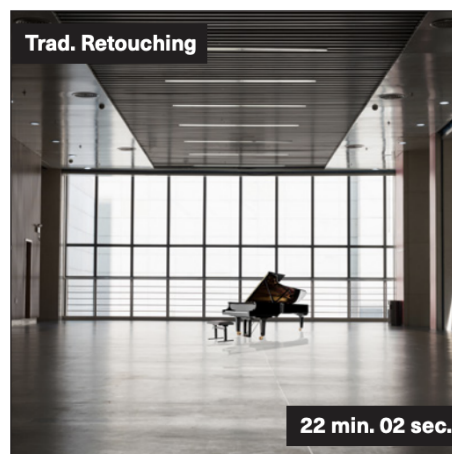
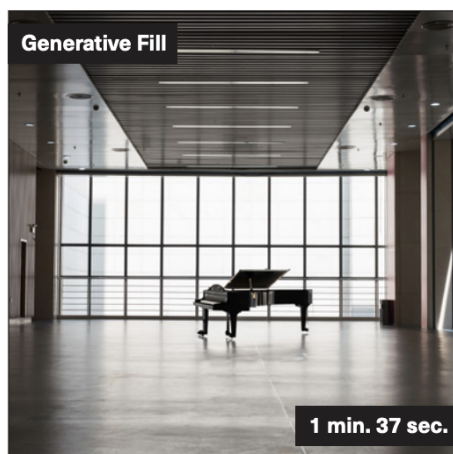
簡単な生成レタッチ：画像をクリーンアップするには、「コピースタンプツール」や「スポット修復ブラシ」などのPhotoshopツールで十分な場合もありますが、この黄色い日よけの場合のように、削除したアイテムの部分に要素を再構築する必要がある場合は、より複雑になります（左の写真）。

(1) 左の観光客、(2) 僧侶の背後に並ぶソーダ缶、(3) 黄色い日よけを「生成塗りつぶし」で取り除くのにかかった時間は5分強。同じ画像を手動でレタッチすると、ベンチマークでは50分以上かかりました。



エレメントの削除：画像から不要なエレメントを削除するには時間がかかります。テーブルの上のサボテンと部屋の隅のランプを除去する作業と比較すると、「生成塗りつぶし」は従来のレタッチよりも約3倍高速でした。

コンポジションへの追加：従来のレタッチでは、ターゲット画像に新しくエレメントを追加する場合、それを周囲に馴染ませる作業が必要でしたが、「生成塗りつぶし」を使えばこのプロセスは完全に自動化されます。ホールの写真にグランドピアノを追加するのに、従来の方法では22分かかったのに対し、「生成塗りつぶし」では2分もかかりません。



より単純なケースで従来のレタッチ手法と「生成塗りつぶし」を比較するとどうなるでしょうか。もっとシンプルなシーンであっても、手動のレタッチは「生成塗りつぶし」よりも3~4倍時間がかかります。（上の図を参照）

コンポジションにエレメントを追加する場合はもっと複雑で、必要な写真が手元にあっても、パースや照明がそのままではターゲット画像に合致しない可能性があるため、（可能な範囲に制限されますが）手動で画像を調整しなければなりません。

一方、「生成塗りつぶし」では、照明やパースだけでなく、光沢のある表面などの物理的特性も考慮した状態でエレメントを生成することができます。今回のベンチマークでは、何もないホールの画像にグランドピアノを追加しましたが、「生成塗りつぶし」を使えば2分もかからず、床へのピアノの映り込みも生成されました。（上の比較を参照）従来の手法で同等の画像を作成するには22分かかっています（Adobe Stockでグランドピアノの画像を探す5分を含む）。

つまり、「生成塗りつぶし」による生産性の向上は非常に大きいと言えます。さらに、得られるのはスピードだけではありません。Photoshopを使い慣れたユーザーなら、この機能がワークフロー全体にどう実装されているかを理解できるでしょう。前述のとおり、「生成塗りつぶし」操作が実行されるたびにPhotoshopはコンテンツをレイヤーマスク付きの新規レイヤー上に生成し、他に3つの別バージョンも生成します。ここで重要なのは、それら別バージョンもレイヤーとともにPhotoshopファイルに保存されるという事実です。つまり、ユーザーは数日後や数週間後でもそれらにアクセスでき、必要に応じて変更することも可能なのです。

最後に、「生成塗りつぶし」の利用はPhotoshopに限定されるものではないことを指摘しておきます。Adobe Fireflyでは、Photoshopの各種「選択ツール」のような高度な機能はないものの、アップロードした画像を生成AIを使って編集することができます。いずれにせよ、画像レタッチに関しては、「生成塗りつぶし」は新しい時代の幕開けを告げるものだと言えます。

レタッチの可能性をさらに広げる

「生成塗りつぶし」

クリエイティブレタッチの限界を押し広げる

ここまで、一般的なクリエイティブレタッチの範囲内にあるユースケースを分析してきました。しかし、生成AIは、クリエイティブなプロフェッショナルの作業をより高度なレベルで、難しい学びのプロセスを経ずに支援することが可能です。

簡単な例を見てみましょう。例えば、モデルを撮影した完璧な写真をクライアントに見せたところ、ツイードのジャケットが気に入らないからデニム地に変えてほしいと言われたとします。このような場合、**従来のワークフローでは追加で写真撮影を行うことになり、コストと時間が大幅にかかってしまいます。**そんな時、「生成塗りつぶし」ならこの**変更が数秒で完了**します。必要なのは、ジャケットを選択し、プロンプトとして「デニムに置き換える」と入力し、「生成」ボタンをクリックするだけです。

注意すべき点は、生成AIが常に望みの結果を返すとは限らないということです。アーティファクトが現れることもあります。それは問題ではありません。複数のバージョンが生成されるため、通常はそのうち少なくとも1つは条件に当てはまりますし、そうでなければ別バージョンを数秒で生成することができます。さらに、適切なプロンプトの追加により生成画像の精度を高めることも常に可能です。

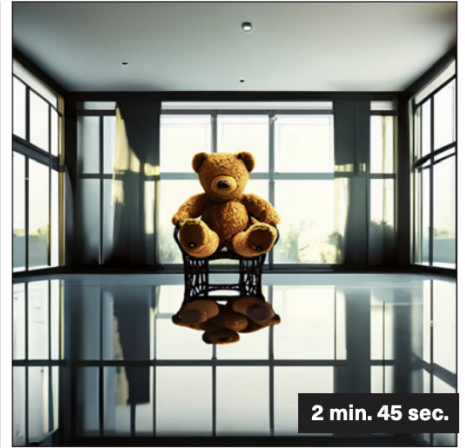
主なポイント

- 「生成塗りつぶし」と「生成拡張」は、**クリエイティブな画像処理の新時代を切り開き、クリエイティブレタッチのワークフローに非常に大きな生産性の向上をもたらします。**
- 「生成拡張」は、ソース画像と整合性のある**ビジュアルコンテンツを再構築することで、画像を拡張**することができます。
- すべての生成操作において、より詳細な**テキストプロンプトの入力によって生成画像の精度を高める**ことが可能です。



従来のレタッチのその先へ：右上の写真から、「生成塗りつぶし」をさまざまな選択範囲とプロンプトの組み合わせで使用し、キッチンでシェフに扮した若い女性（左）と、ファンタジーな環境でプリンセスに扮した若い女性（右）の画像を生成しました。かかった時間はそれぞれ2分強と9分です。

画像の特性に順応：Photoshopでさまざまな生成オプションを組み合わせると数分で画像を大胆に変身させられます（左）。また、「生成塗りつぶし」で追加されたエレメントはベース画像のコンテンツを反映し、光沢のある表面がある場合はこの例の椅子のように適切な映り込みとともに作成されます（右）。



画像の拡張：Photoshopの「切り抜きツール」からアクセスできる「生成拡張」は、オリジナル画像のコンテンツに基づいた内容でシーン全体を再構成します。この例では、キッチンの写真（正方形）をベースに「キッチンカウンターを拡張し、植物を追加する」というプロンプトで拡張画像を生成しました（右）。かかった時間は1分強です。



端的に言えば、「生成塗りつぶし」は3つの点で従来のレタッチの限界を突破しています。その1つ目は、**ターゲット画像の特性を反映して新しいエレメントを追加**できることです。上の画像では、ラウンジチェアに座ったテディベアを「生成塗りつぶし」で追加しました。このプロセスにはその適切な影や反射の生成も含まれていますが、これは従来のレタッチではほとんど不可能なことでした（右上）。

「生成塗りつぶし」の重要な点の2つ目は、**既存の画像を拡張**できることです。上の一番下の画像では、正方形のオリジナル画像を「キッチンカウンターを拡張し、植物を追加する」というプロンプトで拡張しました。**作成にかかった時間は1分強**です。このような可能性は、生成AIツール以前には想像もできなかったことであり、クリエイティブなプロフェッショナルがソース画像を扱う方法を一変させるであろうことは言うまでもありません。

3つ目は、**これらの機能の組み合わせが可能**であることで、これは**クリエイティブなレタッチの境界を完全に再定義**します。前ページの画像がその好例です。若い女性のシンプルな写真から始めて、彼女を別の職業（この場合はキッチンに立つシェフ）

にしたり、ローブを着て真珠のネックレスをつけたファンタジーな環境にしたりすることができました。これは画像のさまざまな部分を範囲選択し、適切なプロンプトで「生成塗りつぶし」を適用することで実現しましたが、**作成にかかった時間はそれぞれ2分と8分強で、手動のレタッチは必要ありませんでした。**

この例ほど極端でなくても、生成AI機能の組み合わせによって生産性は大幅に向上します。上の黄色いコートを着た女性の写真（左上）を違和感なく完全に変えるのにかかった時間は**5分強**です。**従来のレタッチで同じ結果を得ようとすると、1時間半**かかりました。

前述したように、これらの機能が非常に強力なのは、Photoshopの豊富なレタッチ機能や合成機能と緊密に統合されているからです。「生成塗りつぶし」は、**そのポテンシャルをフルに発揮したとき、単なる新しいツールではなく、クリエイティブな画像編集の新たな次元への扉を開く存在**となると言っても過言ではありません。

Adobe Fireflyで画像制作の限界を突破

Adobe Fireflyでできること

これまで私たちは、レタッチワークフローにおける生成AIの影響に注目し、画像合成やレタッチに使われる代表的なアプリケーションでこれらの技術を使用した場合に期待できる生産性向上の定量化を試みました。ここでは、オンラインで提供される画像生成システムであるAdobe Fireflyを詳しく見てみましょう。

Photoshopでは、適切なテキストプロンプトを使って画像の完全なコンポジションを作成することができますが、Fireflyを使用する方がはるかに簡単です。これにはいくつかの理由があります。他のテキスト画像変換システムと同様に、Fireflyもテキストプロンプト（自然言語による希望する出力の説明）から画像を生成しますが、簡単なように思えるプロンプトの作成も技術的な専門知識が求められる新しい分野に急速になりつつあります。そこで、プロンプト作成のハードルを下げるため、Fireflyのwebサイトでは、何百ものサンプル画像がプロンプトと共に提供されています。Fireflyを使いやすくしているもう一つの重要な点は、

主なポイント

- Adobe Fireflyは、**詳細なテキストプロンプトから複雑な画像を作成**することができ、生成レタッチにも使用できます。
- 豊富な**スタイルプリセットとテキストプロンプトの提案機能**により、Adobe Fireflyの**可能性を知ったり創造を探求したり**するのが簡単です。
- **ベクターアートの「生成再配色」**では、テキストプロンプトとスタイルプリセットに基づいて選択的にパレットを適用することで、**生産性を大幅に向上**できます。

アドビの生成AIツールボックス

	Adobe Firefly (webサイト)	Creative Cloudアプリ
画像生成	Fireflyは、テキストプロンプトから複雑な画像を作成ことができ、希望する画像の種類やスタイル、照明など、さまざまなプリセットを提供	Photoshopは、テキストプロンプトから完全な画像を作成できる一方、現在のところ、Fireflyのようなスタイルプリセットは提供せず
画像編集（生成塗りつぶし）	Fireflyは、アップロードされた画像をさまざまな方法（背景の変更、要素の追加や削除など）で加工することが可能	Photoshopの生成塗りつぶしオプションは、画像の選択範囲を対象に、非常に高度な画像編集とレタッチを可能にする
スタイル付きテキストの生成	Fireflyの「テキスト効果」は、テキストプロンプトに基づいて非常に洗練されたスタイル付きテキストを生成し、画像合成やビデオで使用するために（透明度情報を含めて）書き出す事が可能	Creative Cloudアプリは現在、スタイル付きテキストの生成機能を提供していないが、Fireflyの「テキスト効果」の成果物を読み込むことは可能
ベクターアートの生成再配色	Fireflyは、生成AIによりテキストプロンプトに基づいてベクターアートを再配色することができ、さまざまなプリセットとスタイルから選択が可能	Illustratorでは、プリセットやスタイルを含め、ベクターアートの生成再配色を利用可能
2D画像の拡張や3Dオブジェクトに基づく画像生成	Fireflyには、将来的に「生成拡張」と同等の機能や「3Dから画像生成」（3Dオブジェクトに基づいた画像生成）を導入し、生成プロセスにより高度な創造的コントロールを提供する予定	Photoshopはすでに「切り抜きツール」を使って画像を任意の方向に拡張できる「生成拡張」をサポートしており、テキストプロンプトで指定すれば新しいエレメントを追加することも可能

ユーザーのテキストプロンプト作成能力だけに依存せず、コンテンツの種類（「アート」、「写真」、「グラフィック」）やスタイル（「デジタルアート」、「線画」、「彫紙」など）など、出力したい画像の特性や照明、色調、構図をプリセットとして幅広く提供していることです。これらのプリセットとテキストプロンプトの併用で、創造の可能性をすばやく探索できます。

著作権と知的財産の問題

2022年に最初のテキスト画像変換システムが登場するとすぐに、生成された画像の扱いや、**画像生成はトレーニングに使われた画像の著作権侵害にあたるのかどうか**（企業にとって重大な懸念事項）に関して強い論争が起きました。

現在提供されている画像生成システムの大半においてこれらの懸念はまだ解決されていませんが、アドビは最初からこれらの問題に対処することを決断しました。事実、**Adobe Fireflyは安全に商用利用できるように設計されており**、ライセンスされたAdobe Stockおよび著作権が失効したパブリックドメインの画像のみでトレーニングされています。さらにアドビは、Fireflyの収益の一部を**Adobe Stockのコントリビューターに報酬として還元**することを約束しました。**アドビはまた、企業ユーザーにIP補償を提供する予定**（2023年11月現在は提供中）です。これは、Fireflyが生成した出力*への、第三者からの知財侵害の申し立てからユーザーを保護することを意味します。最後に、アドビは**Fireflyで生成された画像がAI出力であることを明確に表示**することも約束しています。これは、人間の創造性の尊重と支援を目的としてクリエイティブワークフローに生成画像を統合する上で重要なステップです。

<https://techcrunch.com/2023/06/26/adobe-indemnity-clause-designed-to-ease-enterprisefears-about-ai-generated-art/>

Adobe Fireflyを使った複雑な画像の生成



上の画像は、「丘陵地帯に埋め込まれた有機的な家、建築写真、建築のスタイル、未来派、モダニズム建築」（左）、「街の建物を背景に晴れた空を高速で走るティベアの超リアルな画像、長時間露光で浅い被写界深度とモーションブラーを

作成」（右）というテキストプロンプトを使用してAdobe Fireflyで作成したものです。各生成操作で4つのバリエーションが作成されます。同じプロンプトを使用しても、作成される画像は決して同じにならないことに注意する必要があります。

AIによるベクターアートの再配色

一般のユーザーにとって、ベクターアートの「生成再配色」は「生成塗りつぶし」ほど壮大には見えないかもしれませんが、経験豊富なIllustratorユーザーにとって、この新機能は生産性を大幅に向上させるものです。

カラーバリエーションの作成は、クリエイティブなコンセプトを開発し、さまざまな状況に適応させるために不可欠なプロセスです。しかし、さまざまな「ムード」に色彩を適応させるには、複雑なベクターセット全体にわたって整合性がとれるように色相を調整しなければならず、複雑な作業になりがちです。

IllustratorとAdobe Fireflyの両方で利用可能な「生成再配色」は、この複雑なプロセスを大幅にスピードアップします。ユーザーは、テキストプロンプトを使用してさまざまな配色を探索したり、プリセットやスタイルオプションを使用して再配色のプロセスをコントロールしたりできます。

調査方法

このベンチマーク調査はアドビの委託を受け、Pfeiffer Consultingが独自に実施しました。

この資料に記載されている生産性の指標はすべて、実際のワークフロー例に基づいており、関係するアプリケーションやワークフローについて長年の経験を持つ専門家によって設計、実行されています。

生産性の測定方法

基本的なアプローチは単純です。アプリケーションやソリューションがもたらす（あるいはもたらさない）生産性の向上を評価するためにはまず、比較対象のアプリケーションやワークフローのそれぞれにおいて、所与の結果を達成するのに必要な最小限のステップ数を分析します。

このアクションのリストが明確に確立されると、私たちは、この分野とテスト対象のソリューションに長年の経験を持つ熟練した専門家の助けを借りて、各ソリューションで操作またはワークフローを実行します。

すべてのステップを3回実行し、その平均値を使用します。

Pfeiffer Consultingについて

Pfeiffer Consultingは、出版、デジタルコンテンツ制作、ニューメディアのプロフェッショナルのニーズに焦点を当てた、独立系のテクノロジーリサーチおよびベンチマーク業務を行っています。

詳細については、以下までお問い合わせください。

research@pfeifferreport.com

Pfeiffer Report

詳細は research@pfeifferreport.com まで。

このレポートに掲載されているデータは、評価および一般的なシミュレーションであり、情報提供のみを目的としています。これらの情報は、既存の企業やワークフローの状況について、具体的な生産性の調査や計算を行うことを意図したのではなく、またそれに代わるものでもありません。Pfeiffer Consultingは、本レポートに含まれるいかなる情報、アドバイス、または推奨に基づき実施された行動の使用または方針について一切の責任を負わず、本レポートまたは関連文書で提供されたデータに基づく購入、設備、投資、またはその他の決定や引き受けについて責任を負いません。

Adobe、Adobeロゴ、Creative Cloud、Firefly、Illustrator、PhotoshopおよびPremiereは、米国およびその他の国におけるアドビの登録商標または商標です。その他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。